

[株主のみなさまへ]

第22期 第2四半期 (中間期) 決算のご報告

2025年4月1日から9月30日まで

証券コード:6674



2nd Quarter Digest

連結業績ハイライト

売上高

2,721 億円
前年同期比 +2.9%

営業利益

187 億円
前年同期比 +19.1%
のれん等償却前
190 億円

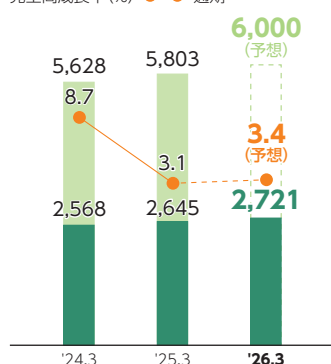
経常利益

172 億円
前年同期比 +19.4%

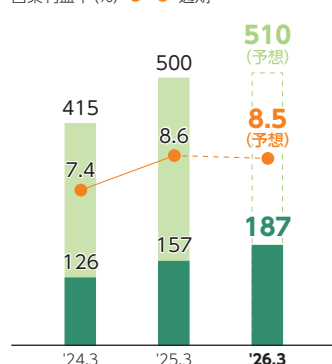
親会社株主に帰属する
中間(当期)純利益

104 億円
前年同期比 +11.2%
のれん等償却前
107 億円

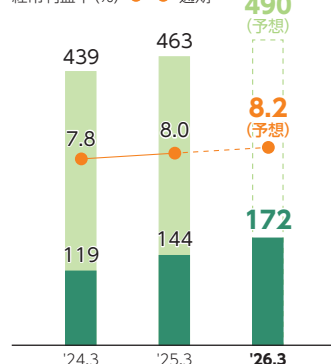
売上高(億円) ■ 中間期 ■ 通期
売上高成長率(%) ● 通期



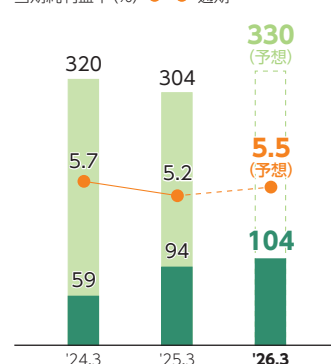
営業利益(億円) ■ 中間期 ■ 通期
営業利益率(%) ● 通期



経常利益(億円) ■ 中間期 ■ 通期
経常利益率(%) ● 通期



中間(当期)純利益(億円) ■ 中間期 ■ 通期
当期純利益率(%) ● 通期



売上高・営業利益・経常利益の増加要因

- 自動車電池(国内)、産業電池電源および車載用リチウムイオン電池の売価見直しに加え、販売数量が増加

中間純利益の増加要因

- 法人税等が増加したものの、遊休地の売却により固定資産売却益が増加

Full-year Forecast

通期予想

第22期(2026年3月期) 連結業績予想

第22期(2026年3月期) 配当予想

売上高

6,000 億円
前年同期比 +3.4%

営業利益

510 億円
前年同期比 +1.9%

経常利益

490 億円
前年同期比 +5.7%

親会社株主に帰属
する当期純利益

330 億円
前年同期比 +8.5%

中間

30.00 円/株

期末

50.00 円/株

合計

80.00 円/株

Top Message

売上高および各段階利益ともに
過去最高となりました。

世界経済は、全体としては底堅く成長を維持したものの、米国の政策変更に伴う影響や地政学リスク、金融市場の変動等、先行きの不透明な状況が続いています。

このような経済状況の中、当社グループでは、自動車用鉛蓄電池をはじめ、産業用の非常用電源装置、ESS用リチウムイオン電池、またHEV、PHEV用のリチウムイオン電池など、多くのセグメントで売上が増加した結果、当中間連結会計期間の売上高は、2,721億51百万円と前中間連結会計期間に比べて76億45百万円増加（+2.9%）しました。これに伴い、営業利益は187億22百万円（のれん等償却前営業利益は190億92百万円）と前中間連結会計期間に比べて29億99百万円増加（+19.1%）しました。経常利益は営業利益段階

での増益により、172億83百万円と前中間連結会計期間に比べて28億3百万円増加（+19.4%）しました。親会社株主に帰属する中間純利益は、法人税等が増加したものの、固定資産売却益の増加等により、104億65百万円と前中間連結会計期間に比べて10億56百万円増加（+11.2%）しました。

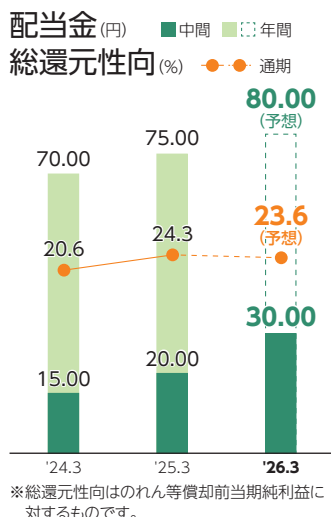
当社をとりまく環境において、インフレや原材料市況の変動影響はありつつも、売価変更などにより、これらの影響に左右されない収益体質の構築が着実に進んでいます。

第六次中期経営計画期間も残り6か月となりましたが、次期第七次中期経営計画へ向けてしっかりとした成長の土台を作るべく、一層の収益力強化に努めてまいります。今後も引き続き、当社グループへのご支援をお願いいたします。



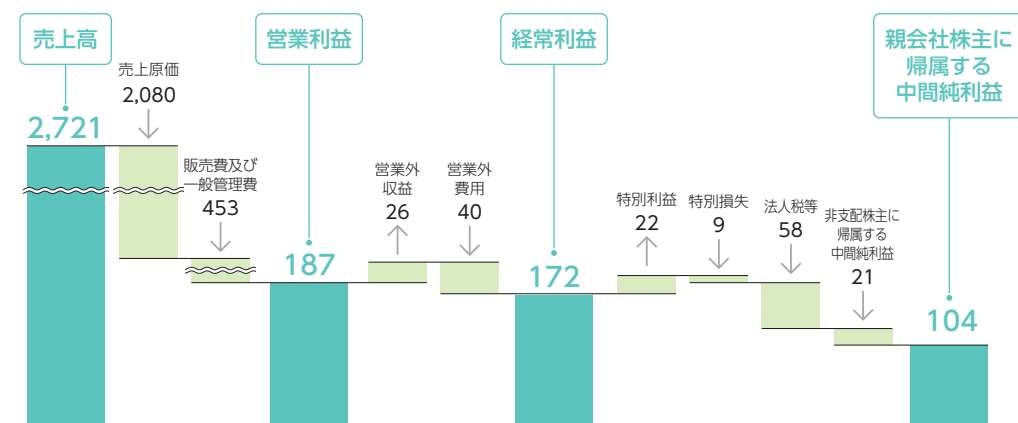
代表取締役
取締役社長 阿部 貴志

株主還元



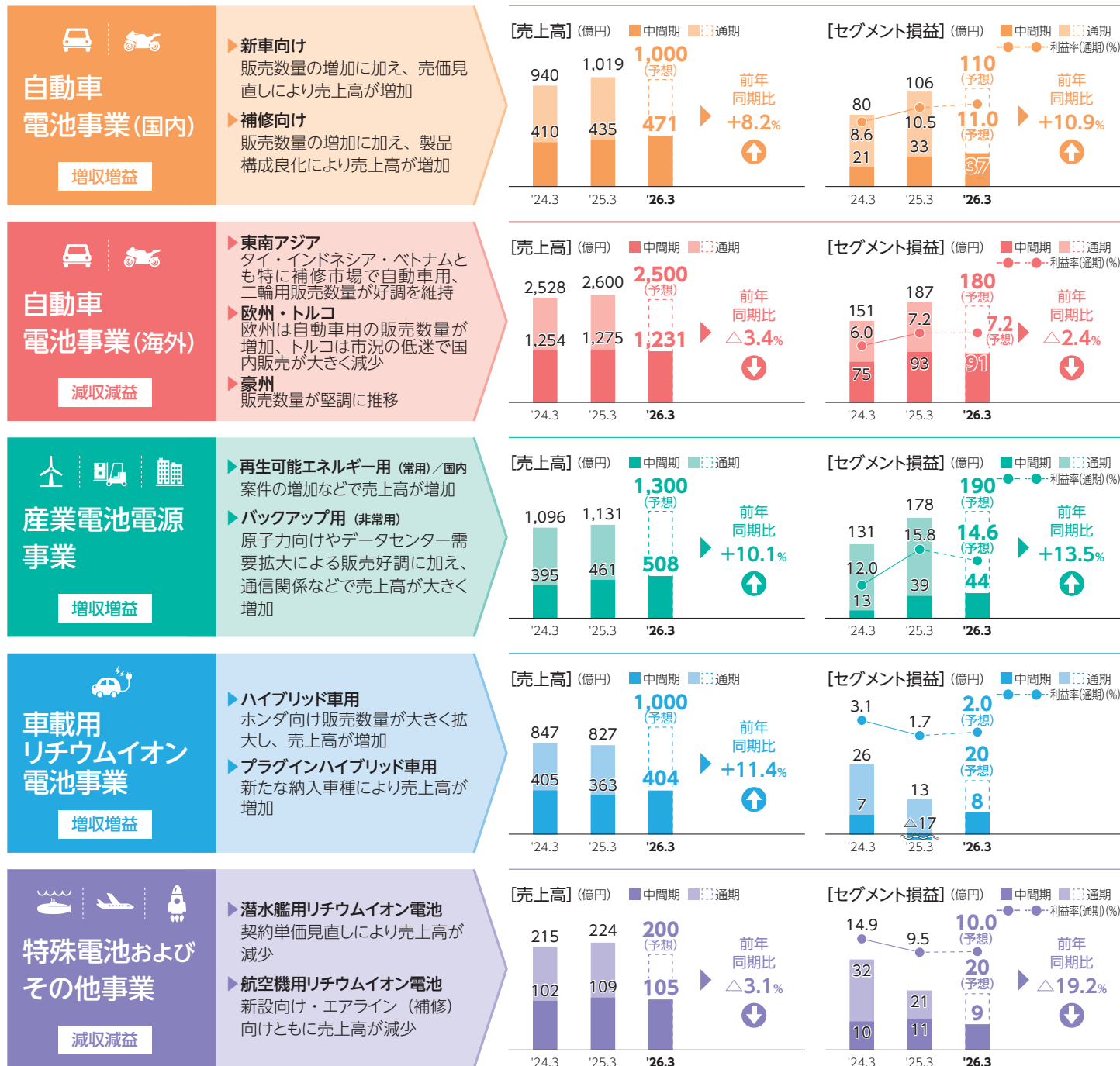
Financial Statement

連結損益計算書 [当中間期] (2025年4月1日～9月30日) (億円)



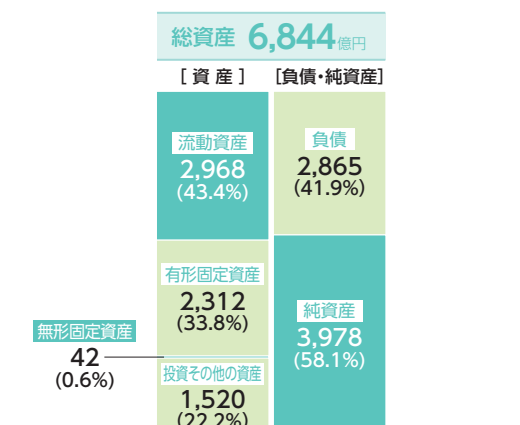
Segment Results

セグメント別連結業績

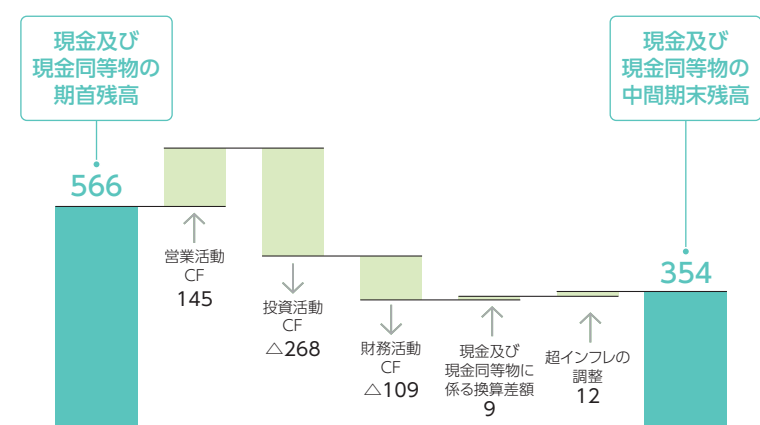


財務諸表

連結貸借対照表 [当中間期末] (2025年9月30日) (億円)



連結キャッシュ・フロー計算書 [当中間期] (2025年4月1日～9月30日) (億円)



GSユアサと北海道大学が共同研究で革新的なCO₂分離回収技術を開発 ～高エネルギー効率・99%以上の高濃度CO₂ガス回収を実現～

株式会社 GSユアサは、カーボンニュートラルの実現に向け、北海道大学と共同で電気透析を応用した革新的なCO₂分離回収技術を開発し、その技術を適用したCO₂分離回収システムの小型実証機を本年7月から稼働開始しました。

本技術は、GSユアサ独自のpHスイング機構を採用することで高いエネルギー効率を実現し、99%以上の高濃度でCO₂ガスを回収できる点、および環境負荷が低い点が特長です。このたび稼働した実証機でCO₂処理量を1kg/dayまで高め、さらに次のステップでは大型化を図り、1t/dayレベルまで拡張することを目指します。

従来のCO₂分離回収技術は、火力発電所などの大規模なプラントでの運用が主流でした。しかし、本技術を用いることで、環境負荷が低い特長を活かして、食品工場や醸造所などの中・小規模設備でも高効率なCO₂の分離回収が可能となり、多様な現場への導入拡大が期待されます。また、回収した高

濃度CO₂ガスは貯留するだけでなく、エネルギー源や化学品原料など、さまざまな用途で再活用できます。さらに、宇宙空間や海洋などの特殊環境でのCO₂分離回収への応用も期待されます。

インプットCO ₂ 濃度	
大気	0.04%
排ガス	8～10%
アウトプットCO ₂ 濃度	
99%以上	

CO₂分離回収システム 小型実証機

2025年9月10日のニュースリリースはこちら

<https://newsroom.gs-yuasa.com/news-release/346>



パワーコンディショナ併設型リチウムイオン蓄電池設備を用いた大阪ガスとの共同実証を開始 ～株式会社Shizen Connectのエネルギー管理システム「Shizen Connect」に対応～

株式会社 GSユアサは、大阪ガス株式会社と昨年5月に締結した共同実証契約に基づき、本年10月から販売のパワーコンディショナ(PCS)併設型リチウムイオン蓄電池設備を用いた共同実証を開始しました。

本実証では、大阪ガス敷地内に本蓄電池設備の試作機を設置し、複数の電力市場取引に対応するマルチユース運用の検証を行うとともに、蓄電池の性能や特性を活かした最適運用制御パターンおよび設備の動作検証を行います。なお、実証開始に合わせて、国内有数のVPPプラットフォーム提供会社である株式会社Shizen Connectのエネルギー管理システム「Shizen Connect(シゼン コネクト)」との連携も完了しました。蓄電池設備を電力市場などで有効活用するためには、分散する電源リソースの運用を担うアグリゲーターとの連携が不可欠ですが、Shizen Connectが提供するプラットフォームと連携することで、より多くのアグリゲーターと円滑なシステム構築が期待できます。

また、本実証の対象製品は、PCS盤と蓄電池盤が分割されていることで狭小地などの立地課題に柔軟に対応が可能であり、系統用、再エネ併設、需要家併設といった定置用蓄電事業全般へ適用できる製品です。



GSユアサ製 蓄電池設備

項 目	概 要
設置場所	大阪市此花区 大阪ガス西島地区
実証運用期間	2025年9月～2028年3月
機器	パワーコンディショナ：500kW リチウムイオン電池：840kWh(共にGSユアサ製)
検証内容	●複数の電力市場に対応したマルチユース運用の検証 ●蓄電池の特性に合わせた最適運用制御パターンおよび蓄電池設備の動作検証

2025年9月25日のニュースリリースはこちら

<https://newsroom.gs-yuasa.com/news-release/345>



IRメール
配信サービス
のご案内

当社の適時開示などIRに関する最新情報をメールでお知らせいたします。
メールアドレスをお持ちの方ならどなたでも無料で登録いただけます。

<https://ir.gs-yuasa.com/jp/ir/irmail.html>

登録はこちらから



当社グループでは、
スポーツ文化の振興と地域社会の発展に貢献することを目的に、
さまざまな企業とパートナーシップ契約を締結しています！

1
SOCCER

J.LEAGUE (Jリーグ)
京都サンガF.C.

当社は「サンガに関係するすべての人々の夢と感動を共有し、地域社会の発展に貢献する」という理念に賛同し、2023年より、Jリーグ 京都サンガ F.C.とのオフィシャルゴールドスポンサー契約を締結しています。

詳しい内容はこちら

<https://newsroom.gs-yuasa.com/topics/139>



©KYOTO.P.S.

京都サンガF.C.の
ホームページはこちら

<https://www.sanga-fc.jp/>



2
BASKETBALL

B.LEAGUE (Bリーグ)
京都ハンナリーズ

当社は「京都ハンナリーズに1秒でもかかわる全ての人に夢と感動を!」という理念に賛同し、Bリーグ 京都ハンナリーズ(スポーツコミュニケーション KYOTO株式会社)とパートナーシップ契約を締結しています。

2024-2025シーズンはゴールドパートナーとしての契約でしたが、2025-2026シーズンはランクアップし、メジャーパートナーとしての契約となります。

詳しい内容はこちら

<https://newsroom.gs-yuasa.com/topics/336>



京都ハンナリーズの
ホームページはこちら

<https://hannaryz.jp/>



当社ロゴ
掲載イメージ



選手着用
ユニフォームの
鎖骨部分に
当社ロゴが掲載!

3
TABLE TENNIS

T.LEAGUE (Tリーグ)
京都カグヤライズ

当社は「卓球を通して、心身ともに豊かな社会づくりに貢献する」というビジョンに賛同し、Tリーグ 京都カグヤライズ(株式会社京都卓球クラブ)の2025-2026シーズン ゴールドパートナーとなりました。

詳しい内容はこちら

<https://newsroom.gs-yuasa.com/topics/312>



京都カグヤライズ
ホームページはこちら

<https://kyoto-kaguryalyze.com/>



当社ロゴ
掲載イメージ



選手着用
ウォームアップ
ウェアの
鎖骨部分に
当社ロゴが掲載!

会社概要 (2025年9月30日現在)

商 号	株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション (GS Yuasa Corporation)
事 業 目 的	電池を中心とした事業を営む傘下のグループ企業の経営戦略を策定、統括し、グループの企業価値の最大化を図る。
設 立	2004年4月1日
資 本 金	52,841百万円
本 社 所 在 地	京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1番地 電話(075)312-1211
ホ ー ム ペ ー ジ	https://www.gs-yuasa.com/jp/
上場金融商品取引所	東京証券取引所 プライム市場

株主インフォメーション

○住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社等にお申出ください。なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

○未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

株主のみなさまの
声をお聞かせください

コエキク

当社は、株主のみなさまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスキー入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。

<https://koekiku.jp>

アクセスキー 6674o38c

スマートフォンから
カメラ機能で
QRコードを読み取り

QRコードは株式会社アソソウェア
の登録商標です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝を進呈させていただきます。

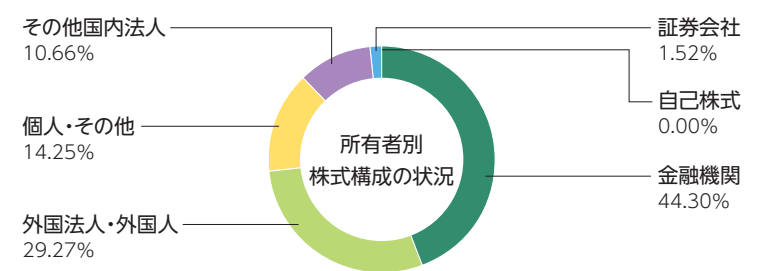
本アンケートは、株式会社プロネクサスの提供する「コエキク」サービスにより実施いたします。
アンケートのお問い合わせ「コエキク事務局」
✉ koekiku@pronexus.co.jp

株主メモ

事 業 年 度	毎年 4 月 1 日から翌年 3 月31日まで
定 時 株 主 総 会	毎年 6 月
基 準 日	定時株主総会および期末配当:毎年 3 月31日 中間配当:毎年 9 月30日
株主名簿管理人 特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目 4 番 1 号 三井住友信託銀行株式会社
郵 便 物 送 付 先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目 8 番 4 号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電 話 照 会 先)	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) [受付時間 9:00~17:00 (土・日・祝祭日を除く)]
公 告 方 法	電子公告とし、当社ホームページ(https://www.gs-yuasa.com/jp/ir/)に掲載いたします。ただし、事故その他のやむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株式の状況 (2025年9月30日現在)

発行可能株式総数	発行済株式総数	株主数
280,000,000株	100,446,442株	36,346名



大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (株)	出資比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行 (株) (信託口)	16,317,600	16.25
(株)日本カストディ銀行 (信託口)	8,242,640	8.21
本田技研工業 (株)	4,915,750	4.89
明治安田生命保険 (相)	2,800,000	2.79
トヨタ自動車 (株)	2,236,080	2.23
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	2,161,820	2.15
(株)三菱UFJ銀行	1,865,467	1.86
日本生命保険 (相)	1,789,133	1.78
GOVERNMENT OF NORWAY	1,623,600	1.62
(株)京都銀行	1,548,069	1.54

※出資比率は、発行済株式数から自己株式数を減じた株式数 (100,444,336株) を基準に算出しています。